



宗麟のオルガン 癒やしの音

宮崎大名譽教授が復元、臼杵で演奏会



復元したオルガンの演奏＝臼杵市臼杵

田信長と宗麟の元に届けたと説明。宗麟が臼杵に建てた教会でオルガンが弾かれ、グレゴリオ聖歌が歌われていたと思われると解説した。



に巡察師バリニャーノが2台のオルガンを織

大分中世音楽を研究する宮崎大名譽教授の竹井成美さん(76)＝大分市、顔写真Ⅱが、イエズス会士日本通信の書面をスクリー

【臼杵】16世紀に西洋から初めて日本に持ち込まれ、臼杵城主の大友宗麟に届けられたとされるオルガンの復元品を使った演奏会「中世ルネサンス音楽の夕べ in 臼杵」が23日、臼杵市臼杵のサーラ・デ・うすきであった。今年、臼杵城跡が国史跡に指定されたことを記念し、市が開いた。

オルガンは、竹井さんがヨーロッパの資料などから1995年に約200万円かけて復元。2006年に宮崎県立芸術劇場に寄付し、保管されている。

当時のオルガンは風を送る「ふいご」を操る人と、鍵盤を弾く人で呼吸を合わせて演奏する。

大分中世音楽研究会の混声メンバーが当時歌われていた聖歌ミゼレレなどを歌い、オルガンを演奏。約70

「ふいご」と鍵盤、呼吸合わせ



臼杵の教会で歌われていたグレゴリオ聖歌を披露する大分中世音楽研究会



竹井さんは「宗麟が聞いたであろう音色を臼杵の人に届けられて

た。と話し感無量」

人が聞き入った。

市戸内室の末広恵子さん(70)＝顔写真Ⅱは「おだやかな音色に癒やされた。初めてオルガンが届けられた臼杵を誇りに思う」。



〔問①〕 大分中世音楽を研究する竹井さんの説明によると、1580年にイエズス会のバリニャーノが2台のオルガンを届けたのは誰と誰ですか？

〔問②〕 今回の演奏会は何を記念して開かれましたか？

〔問③〕 当時のオルガンの演奏法について、カッコ内に入る言葉を記事から抜き出しましょう。

風を送る「① 」を操る人と「② 」を弾く人で呼吸を合わせて演奏する。

〔問④〕 西洋から初めて日本に持ち込まれたオルガンの音を聞いて、当時の人々はどんな気持ちになったと思いますか？ 当時の人たちの驚きや感動を想像して、皆さんの意見を書いてみましょう。